

日本アジア投資株式会社
2026年3月期 第2四半期
決算補足資料

決算発表日:2025年11月14日

皆さん、こんにちは。日本アジア投資株式会社 代表取締役 丸山でございます。

本日はみんせつを通じての説明会の第2回目となります。

2026年3月期第2四半期決算の説明会を開催させていただきたいと思います。本日はご参加いただきまして、本当にありがとうございます。

当四半期累計実績

- ✓ 巡航速度で推移、前年同期比での悪化は期初想定どおり
- ✓ 上場株式を売却した一方で、大型のプロジェクト売却益は無し
- ✓ 投資先上場企業の株価上昇により含み益が増加

中計の進捗

- ✓ 投資開発事業(プロジェクト投資)のAUM増加は下期以降の見込
- ✓ 投資運用事業(株式投資)ではファンドのAUMが約30億円増加

トピックス

- ✓ 2025年10月 第三者割当増資を決議
- ✓ データセンターへの取り組み
- ✓ KICホールディングスのM&Aを決定

通期業績見込

- ✓ 期初見込(13.9%増収・12.6%増益)を据え置き
- ✓ 複数の未上場株式の売却益を見込む
- ✓ プロジェクト売却は障がい者グループホーム、物流施設、他を見込む

本日の説明内容は、大きく分けて四つございます。

一つは第2四半期の実績でございます。

二つ目は、中期経営計画の進捗状況でございます。

中期経営計画は3カ年計画より成り立っております。

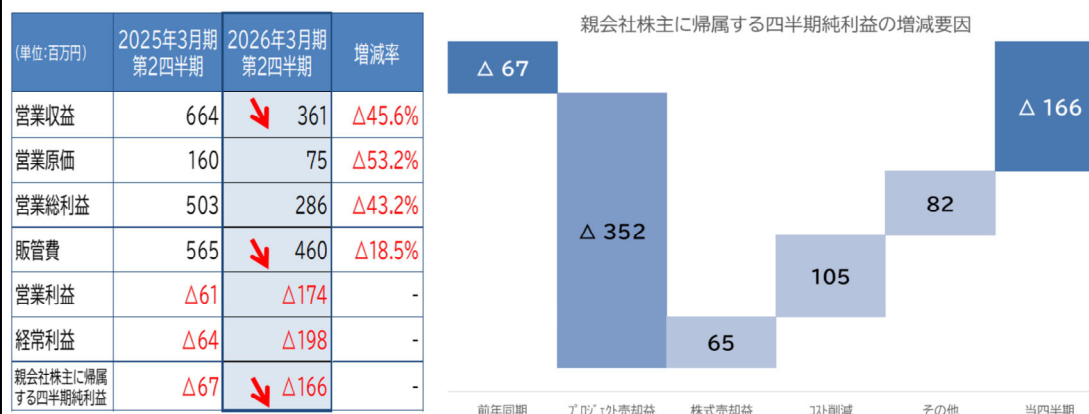
私は、社内でも再三再四、申し上げるんですが、1年目は種まき、2年目は水やり、中計3カ年目、最終年度に花が咲くように、中期経営計画を進捗させております。その状況につきまして、ご報告申し上げます。

三つ目は、最近のトピックスと、最後に2026年3月期通期の業績見込みににつきまして、ご説明申し上げます。

なお、これからお話申し上げる数値につきましては全て、従来連結基準となります。

毎回、少しわかりづらいんですが、当社はさまざまなプロジェクト、ファンドを組成しております。そのファンドの、当社が出資している実質的な持分を反映した、当社の実力値を表す従来連結基準ベースで、お話申し上げたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 当四半期の実績－ハイライト P/L



✓ 減収・赤字要因:

- ・ 利益を伴う大型のプロジェクト売却が無く、減収・赤字計上（前年同期は物流施設1件の売却が寄与）
- ・ 上場株式の売却益により営業総利益率が上昇
- ・ 役員報酬や人件費を始めとして販管費を削減
- ・ これらの業績は期初の想定通り、巡航速度で推移

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 3 -

今第2四半期、4～9月期までの累計の実績でございます。

まず、営業収益、いわゆる売上高は、約3億6,000万円となりました。

前年同期と比べると大幅な減収となっておりますが、前年同期は、その上半期に大きなプロジェクトの売却がありましたが、今期につきましては、それが下期に集中しておるという理由でございます。

一方、上場株式の売却益が今期、増加しております。

具体的に申し上げますと、上場株式のイオレ社の一部持分を、この7～9月期に売却いたしまして、譲渡益を計上している状況でございます。非常に取得単価の安い上場株式を売却したことによりまして、営業総利益率、いわゆる粗利率は上昇いたしております。

また引き続き、当社は事業再生ADRからつづく借入金のリスケジューリング中でございますし、しっかり前期黒字を達成いたしましたが、今期も2期連続で黒字を達成すべく、事業再生の途上でございますので、販管費の削減も、継続的に力強く進めておるところでございます。

しかし、この4～9月期につきましては営業収益が大幅に減少しておりますために、赤字幅が1億円程度拡大しております。営業損失でございますが、1億7,400万円の損失の状況で、今期、進捗しています。前年同期と比べますと大幅な悪化に見えますが、今のところ、この業績は期初の進捗、想定通りでございます。今後、利益の発生する取引が下期に集中してまいりますので、現時点におきまして、前提条件には変更がございません。

2. 当四半期の実績－ハイライト B/S



(単位:百万円)	2025年3月期末	2026年3月期 第2四半期末	増減率	主な増減要因(単位:億円)
総資産	10,693	10,617	△0.7%	
うち 現預金	3,292	↓ 2,544	△22.7%	回収+5、投融資実行△6、 返済△4、費用等△2
うち 投資開発事業 (引当後 プロジェクト投資 (営業投資有価証券・貸付金))	4,088	4,067	△0.5%	投資実行+2、 分配・売却等△2
うち 投資運用事業 (引当後 プライベートエクイティ投資 (営業投資有価証券))	2,856	↑ 3,397	18.9%	投資実行+3、含み益+4、 投資有価証券へ振替△2
借入金	3,495	↓ 3,003	△14.1%	返済△4
自己資本	6,907	↑ 7,138	3.3%	利益△1.7、含み益+4

- ✓ 現預金 : 投資実行・借入金の返済により減少
- ✓ 投資資産: 投資実行が進捗、投資先上場企業の株価上昇による含み益が増加
- ✓ 借入金 : 計画に基づき返済を実施
- ✓ 自己資本: 含み益の増加が損失による減少を補う

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 4 -

バランスシートの状況でございます。

第2四半期末の総資産は、前期末とほぼ同額でございます。

総資産は100億円を少し超える程度、106億1,700万円で、ほぼほぼ資産の状況は変わってございません。一方、現預金は、前向きな投資の実行と借入金の返済によりまして、減少しております。足元、25億4,400万円でございます。

投資資産の中身につきましては、投資開発事業はおおむね横ばいでございます。40億円少しでございます。こちら、詳細につきましては、後ほど解説申し上げます。

他方、投資運用事業は、プライベートエクイティ投資が増加しておりますので、33億9,700万円、2025年3月期末と比べますと18.9%と、2割弱程度、増加しております。

結果としまして、自己資本もわずかながら増加しておりまして、71億3,800万円でございます。

借入金につきましては、計画に基づいて着々と返済を進めております。これは9月末の数字でございますが、10月末に返済期限が到来しており、一時、返済期限に伴いまして10月にも返済を行っておりますので、借入金の残高は、足元では25億円程度には減ってる状況でございます。完済まで着実に進捗しておりますので、あと一歩といったところかと思います。

自己資本ベースが70億円以上ございますので、バランスシート上は非常に健全な状態を維持しながら、一定の投資をしっかりと進めていけている状況といえるかなと思ってございます。

2. 当四半期の実績－ハイライト C/F



(単位:百万円)	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期
営業活動によるCF	116	↓ Δ208
投資活動によるCF	Δ0	↓ Δ108
財務活動によるCF	503	↓ Δ492
CF増減額	643	Δ814
期末残高	2,040	2,233

- ✓ 営業活動によるCF:損失の計上や投資実行により支出超過
- ✓ 投資活動によるCF:投資有価証券の取得により支出超過
- ✓ 財務活動によるCF:長期借入金の返済を行ったことから支出超過

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 5 -

当四半期のキャッシュフローの状況でございます。

営業赤字、最終赤字の状況で進捗しておりますので、営業キャッシュフローは赤字でございます。
また投資活動も行っておりますので、こちらも赤字になってます。

財務活動につきましては、借入金の返済に伴いまして4億9,200万円の赤字でございます。

その結果、期末の現金残高、現金同等物の残高につきましては22億3,300万円でございます。

以上が、第2四半期の業績のご説明です。

3.中期経営計画の進捗状況 ー資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



現 状 分 析	PBRが1倍を下回る状態が継続 → 要因は投資利益率の低さと資産回転率の低さ						
	決算年月	2019/3月	2020/3月	2021/3月	2022/3月	2023/3月	2024/3月
	PBR(倍)	0.41	0.36	0.53	0.41	0.53	0.68
	ROE(%)	8.7	4.9	0.5	0.3	赤字	赤字
	PER(倍)	5.9	9.1	142.3	200.9	赤字	赤字
	ROA(%)	2.00	1.20	0.13	0.09	赤字	赤字
目 指 す 姿	PBRの改善に向けて → 資本コスト(約13.4%)並みのROEを実現						
	① 安定収益の拡大 (フィー収入で固定費をカバーし黒字化定着→資本コストの低減) ② 収益性の改善 (長期滞留資産を早期に回収し資産を入れ替え→資産の回転率の改善 & アセットアロケーション・事業ポートフォリオの見直し→収益性の改善) ③ リファイナンスの実現と財務レバレッジの改善 ④ IR活動のアップデート						
計 画 ・ 目 標	重要な成果指標(KPI)			重要な目標指標 (KGI)			
		2027/3月期		24/3月期	27/3月期	目指す姿	
	投資開発事業 運用資産規模(AUM)増加額	150億円		安定収益	2億円	8億円	10.8億円
	投資運用事業 運用資産規模(AUM)増加額	300億円		ROE	赤字	12.7%	資本コスト13.4%以上
	ファンド・プラットフォーム事業 受託資産規模(AUA)残高	4000億円		親会社株主に帰属する当期純利益	△16億円	10億円	黒字化の定着 一時収益の増加

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 6 -

ここからは、中期経営計画の進捗状況につきましてご説明申し上げます。

当社は、昨年8月に中期経営計画を発表いたしました。

恒常的に、いわゆるPBRが1倍を割っておる状況につきましては、要因としまして、まずは利益を生まない不稼働資産の回収が遅れておるところ、そして投資している資産の利益率が低い、この2点によってROEが低迷しており、従ってPBRが恒常的に1倍を割っておる状況というように認識してございます。こちらを早急に改善するために、4点につきまして、積極的な経営活動を行っています。

まずは、とりもなおさず黒字化の達成のために、安定収益をいかにして拡大をするかに取り組んでおります。そして、安定収益を拡大するだけではなく、成長するために、さらに収益率の高い投資を行っていくべく、収益性の改善に取り組んでおります。

この2点をもちまして、リファイナンスを実現し、正常な投資事業会社として財務レバレッジも拡大し、さらに利益の拡大を追求いたしてまいりたいと思っています。

さらに、今回のように積極的なIR活動を行いまして、投資家の皆様にご理解をいただくとともに、当社の魅力に関して積極的にPRをしてまいりたいと思っております。

中期経営計画上のKPIは、当社の三つの主要なセグメントにおきまして、投資開発事業、投資運用事業につきまして、いわゆるAUMの増加額、こちらをKPIとしております。また、ファンドの運営管理事務受託事業を行っております、ファンド・プラットフォーム事業につきましては、AUA、アセット・アンダー・アドミニストレーション、受託管理資産の増加をターゲットといたしております。

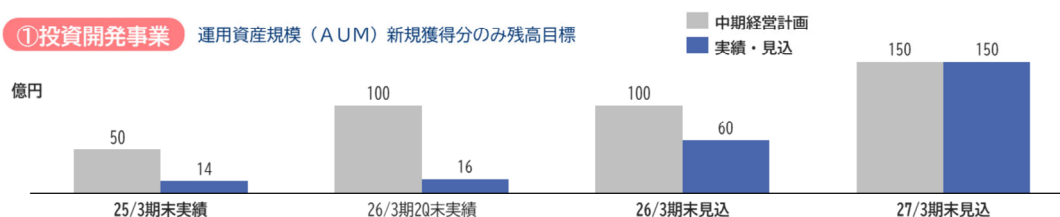
そしてKGI、最終的なゴールにつきましては、中計最終年度であります2027年3月期に安定収益8億円、ROAにつきましては約13%程度をターゲットとし、当期純利益を10億円以上をターゲットといたしております。

3.中期経営計画の進捗状況－KPIの進捗状況



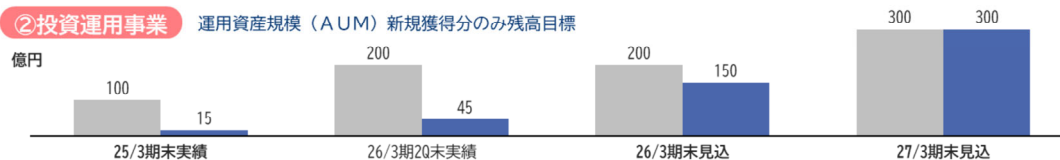
①投資開発事業

運用資産規模（AUM）新規獲得分のみ残高目標



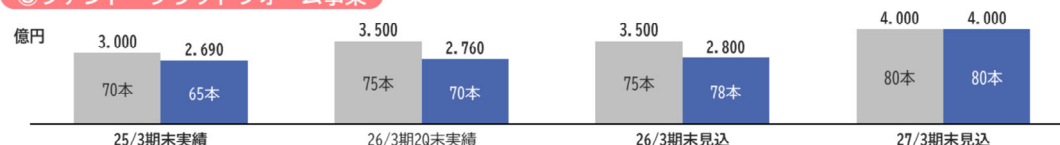
②投資運用事業

運用資産規模（AUM）新規獲得分のみ残高目標



③ファンド・プラットフォーム事業

受託資産規模（AUA）期末残高目標



- ✓ 投資開発事業：下期のデータセンタープロジェクト立上げによるAUM増額を見込む
- ✓ 投資運用事業：当期2Q累計で1ファンドを新設・2ファンドを増額、今後もファンドの新設を複数企画中
- ✓ ファンド・プラットフォーム事業：AUA残高・ファンド数ともに着実に増加

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 7 -

具体的に、KPIの状況につきましてご説明申し上げます。

まず、投資開発事業でございます。

投資開発事業につきましては、金利の上昇、建築コストの上昇、出口における市場の市況環境の悪化もございまして、投資案件につきましては選別を進め、非常に慎重な開発を進めております。収益性の低い案件にはあえて手を出さない、無理してやらないという方針のもと、プロジェクトを選別しておりますために、見込の60億円に対しまして、実績は16億円程度といった低位にとどまっております。ただし、これは足元、目標達成してないのではなく、あえて達成を遅らせているような状況と認識してございます。こちらも具体的には、後ほどご説明申し上げます。

また投資運用事業につきましては、上場企業を投資対象とするファンドの新規組成が順調に進んでおります。既存のファンドにつきましても、増額等がございましたため、AUMの増加額は45億円となっております。

後ほど申し上げますが、当社単体で新株予約権による投資を行っておりますので、これらを加えますと、これはAUMとは申し上げますが、こうしたものも加えますと、実勢としては100億円近い増加額になっていると認識しております。

ただ、ファンドとして外部資金を取り込んだファンドの組成を進めるという観点で申し上げますと、2026年3月期末に向けまして、しっかり150億円程度の見込を達成してまいりたい所存でございます。

最後に、ファンド・プラットフォーム事業につきましては、ファンドの受託が順調に進んでおります。小さなファンドが多かったことによりまして、受託資産残高につきましては目標を下回っておりますが、こちらも受託の状況は、非常に順調に進捗しておる状況でございます。

全ての事業におきまして、2027年3月期末までには、この中期経営計画で立てた目標を着実に達成してまいりたい所存でございます。

3.中期経営計画の進捗状況－AUM増加額の内訳



ファンド名称	設立日	ファンド総額	うち 期中増加額	主な投資対象等
JAICパートナーズファンド	2024年6月	179百万円		当社と共同で事業シナジー創出に取り組む国内の上場及び未上場企業
JAICスペシャルティファンド	2025年1月	612百万円	452百万円	国内のお土産品業界、小売業界、観光業界において、事業成長と地方創生の好循環に取り組む上場企業等
JAICサプライチェーンファンド	2025年1月	830百万円		製造業におけるサプライチェーン関連の上場企業
JAIC-Web3ファンド	2025年2月	465百万円	65百万円	Web3(NFT 等)関連の国内上場企業
JAIC クリプトアセット株式ファンド	2025年7月	2,480百万円	2,480百万円	クリプトアセット(暗号資産)関連企業
合計		4,566百万円	2,997百万円	

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 8 -

中期経営計画の進捗状況としまして、AUMの増加額の内訳でございます。特に、投資運用事業におけますファンドの組成の状況でございます。

今期、期初から増加しましたものにつきましては、まずJAICスペシャルティファンドでございます。

こちらは国内のお土産・観光業界に特化したファンドでございます。ファンドの出資者には、上場企業、あるいは、未公開・未上場会社のパートナー様が加わっておりまして、投資先の成長を力強く後押しする体制が出来上がっております。投資先につきましては、後ほどご説明申し上げます。

それから、JAIC-Web3ファンドです。

こちらはWeb3、NFT等、暗号資産等に関連する国内の上場企業に対して、投資を行っております。

併せてJAIC クリプトアセット株式ファンド、こちらも暗号資産関連企業に対する積極的な投資を行っております。

これらだけで、期中30億円弱のファンドの新規組成が実現いたしました。比較的大きなサイズのファンドの組成が進捗しておりまして、また投資家の暗号資産金融事業に対する期待が高い状況を追い風にしまして、ファンドの運営を今後とも鋭意進めてまいりたいと思っております。

3.中期経営計画の進捗状況－投資先企業の成長支援



- ✓ 新設ファンドから上場企業7社に投資実行
当社による業務提携を通じた事業支援、投資先企業同士の協業も拡大
- ✓ 当社自己資金からも2社への新株予約権投資
資金効率の高い投資手法による収益機会の確保


ブランディングテクノロジー㈱
(東証グロース:7067)

 **タカチホグループ**
株式会社タカチホ
(東証スタンダード・名証メイン:8225)


株式会社イオレ
(東証グロース:2334)

nms ホールディングス株式会社
nms ホールディングス㈱
(東証スタンダード:2162)

W TOKYO
㈱W TOKYO
(東証グロース:9159)

DLE
㈱ディー・エル・イー
(東証スタンダード:3686)


㈱ベストワンドットコム
(東証グロース:6577)

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 9 -

具体的な投資先につきましては、これまでもご説明申し上げてまいりましたが、今期また、新たな顔ぶれが加わっております。

まず、これまでのブランディングテクノロジー、これはマーケティングの会社になります。

タカチホグループ、タカチホにつきましては、申し上げました通り、国内観光土産業界のトップ級の会社でございます。

クリプトアセット株式ファンドにおきまして、新株予約権投資を行いましたイオレさんでございます。

昨今、暗号資産金融事業につきましては向かい風、追い風、両方吹いておる状況かと認識しております。また、暗号資産の取得を目的とした資金調達につきましては、東証より一定の規制に関して方針が示されうる状況と認識しております。

ただ、当社のイオレ社への投資につきましては、こうしたビットコイン等をはじめとする単なる暗号資産の取得にとどまらず、それらを活用した運用、さらに事業と、暗号資産金融の事業化を進めておるところを評価し、また当社も、ともにイオレさんと事業連携を深めてまいることを目的に、出資を、それから新株予約権の投資を行っております。他社と一線を画したイオレ社の事業展開に、今後とも期待をしておりたいと思っております。

「日本アジア投資」という社名の通り、国内外の、日本からアジアそしてアジアから日本といった投資や事業の橋渡しをすべく、サプライチェーン領域における投資活動に注力しております中で、nmsホールディングス株式会社につきましても積極的な投資を行っております。事業連携につきましても、今後しっかり協議を行ってまいり所存でございます。

東京ガールズコレクションといった、主に若年世代向けの興行、リアルイベント主催を行っておりますW TOKYO社にも出資を行いました。

また、アニメ・コンテンツの制作で非常に競争力のあるコンテンツを創出しておりますディー・エル・イー社、そして今期、JAICスペシャルティファンド、観光領域のファンドから新たに出資をしたベストワンドットコム社にも、今回新たな顔ぶれとして加わった状況でございます。

特に、ベストワンドットコム社につきましては、国内外のクルージングの予約チケットサイトを運営しております。ホテル・旅館等の予約サイトは数多ございますが、クルーズ旅行に特化した予約サイトにつきましては、非常にニッチな領域であり、また唯一無二の事業を行っている会社と認識しております。

また当社は、ベストワンドットコムさんと今後、事業連携につきまして、前向きに今、お話し合

いを進めておるところでございます。具体的な内容につきまして、発表できる段階になりましたら、こちらでIRにて発表していきたいと思っております。

また、今回大きな投資の特徴としまして、当社単体での投資が出てまいりました。

具体的に申し上げますと、イオレ社、それからディー・エル・イー社に対します新株予約権投資でございます。

新株予約権投資は、投資実行時点におきましては、比較的小さい金額におきまして、比較的大きな投資金額を、将来の投資実行額を担保できるような投資手法になります。

当社単体としましては、資金効率を高めながら投資を実行できる手法として、また投資先にとりましては将来的に、より大きな資金調達ができ、また当社の協業を深めることができる手段として、資金の出し手も、それから資金の受け手も、両方の成長にとって、または両方の投資効率にとって、より良い手法であるというように認識しております。

将来的に、当社の協業によって大きな成長が見込める先に対しましては、新株予約権投資という投資手法を積極的に活用して、当社単体からも、こうした投資を積極的に行ってまいりたいと思っております。

ONE-JAPAN 観光ファンドの設立

HIS、ZUU子会社と共に国内未上場企業向け観光ファンドを設立



日本経済をけん引する観光産業の持続的成長を支援

ファンド概要

ファンド名称	ONE-JAPAN観光ファンド投資事業有限責任組合
所在地	東京都千代田区
ファンド設立	2025年10月
無限責任組合員	日本アジア投資株式会社、株式会社エイチ・アイ・エス、ZUU Funders株式会社
ファンド総額	1,000百万円(2026年3月末 募集期間完了時点 目標額)
主な投資対象	観光関連の国内未上場企業(含むスタートアップ)

また一つの大きなトピックといたしまして、国内観光や海外観光業界におきます、これまでインバウンド・アウトバウンドとございますが、この領域をフロンティアとして開拓してこられましたエイチ・アイ・エスさん、それから国内富裕層向けメディアと金融ソリューションを提供しておりますZUUさんと、弊社3社で、ONE-JAPAN 観光ファンドを設立いたしました。

こちら目標の募集金額を10億円といたしまして、富裕層、それから国内外の観光業界における各社のリソースを生かして、観光業界に特化した国内未上場企業（含むスタートアップ）への投資に、注力をしていくファンドを組成いたしました。早くも、国内外の金融機関様から出資のご意向、ご要望をいただいております。

地方に、これから人流、インバウンドも含めまして、いかに観光資源、観光の動脈を分散していくかという中で、テクノロジーにもフォーカスした地方への投資にも力を入れつつ、このONE-JAPAN 観光ファンドをエイチ・アイ・エスさん、ZUUさんとともに、大きなファンドに育成してまいりたいと思っております。

4.トピックスー第三者割当増資について



2025年10月決議、本ファイナンスにより**総額約37.4億円**(※1)の資金調達を予定

普通株式		新株予約権(行使価額固定型)		新株予約権(行使価額修正型)	
調達額	252百万円	調達予定額	994百万円(※2)	調達予定額	2,507百万円(※3)
株価	252円	行使価額	252円	行使価額	当初行使価額252円(※4)
株式数	1,000千株	株式数	4,000千株	株式数	10,000千株
—	—	行使期間	2025/11/11～ 2027/11/10	行使期間	2025/11/11～ 2027/5/11

※1、2 調達予定額は、行使価額固定型新株予約権の全てが行使されると仮定した数値です

※1、3 調達予定額は、行使価額修正型新株予約権の全てが、当初行使価額で行使されると仮定した数値です

※4 行使価額が修正されるため、調達予定額は変動します

具体的な資金使途

資金使途	金額	支出予定時期
① 投資開発事業におけるAUMの積み上げのための投資資金 ・ データセンター・プロジェクトへの投資 ・ データセンター・プロジェクトを投資対象としたファンド組成のための出資金	600百万円	2025年11月～ 2027年3月
② 投資運用事業におけるAUMの積み上げのための投資資金 ・ 暗号資産事業等を行う企業を投資対象としたファンド組成のための出資金 ・ その他ファンド組成のための出資金	1,940百万円	2025年11月～ 2027年3月
③ AUMの積み上げのためのM&A資金 ・ ライセンス取得目的 ・ 安定収益拡大目的	1,200百万円	2025年11月～ 2027年3月
合 計	3,740百万円	

(注意) 実際に調達した金額が調達予定額を下回る場合には、手元資金から支出する予定です。ただし、手元資金が不足する場合には、投資実行やファンドの組成、M&Aの実行を取り止める予定です。

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 11 -

この10月、昨年に引き続きまして、第三者割当増資をさせていただきました。

昨年の増資につきましては、前々年度に大幅赤字を計上しましたことから、財務補填の面での増資でございましたが、今回、この10月に決議をさせていただきましたファイナンスにつきましては、より前向きなファイナンスというように認識しております。総額37億4,000万円の資金調達予定となるファイナンスを実行いたしました。

ファイナンスが三つのパートにわかれておりますので、少し詳細に説明させていただきたいと思えます。

一つ目は普通株式でございます。発行株価は252円で、約2億5,000万円。こちらは既に調達をさせていただきました。

二つ目は新株予約権で、行使価格が固定されております。行使価格は普通株式と同じ252円となります。これら全ての予約権が行使された場合には、約9億9,000万円の調達となります。

三つ目は、行使価格が株価の変動によりまして修正されるタイプでございます。ただ、昨今ありますようなディスカウントありではございませんで、ディスカウントなしの予約権価格でございます。直近の株価を参照しながら、ディスカウントは0%で行使が進む予定でございます。仮に252円で全て行使されますと、調達額が約25億円となります。

これらを合わせて37億4,000万円が調達見込みの金額となっております。株価の変動によりまして、最終的な調達金額は変動いたします。こちらもしっかり最後まで調達を成功させ、前向きな次の投資に振り向けてまいる所存でございます。

具体的には、データセンターへの投資に6億円、新規ファンド組成のために約19億円、そしてM&Aに12億円を投じる予定でございます。

ファンドにつきましては、先ほどご紹介させていただきました通り、主に暗号資産関連事業を行う会社、またサプライチェーン、当社が注力する観光領域に、事業を行っている会社に対しまして、より積極的なファンド活動のもと、投資を行ってまいる所存でございます。

また、M&Aにつきましては、当社の中計を着実に達成すべく、安定収益を生み出している事業を保有する会社、または当社のこれらの全ての事業をより加速させるために、必要な金融関連のライセンスを保有している会社等がターゲットになる見込みでございます。

4.トピックス－第三者割当増資について



<本ファイナンスの目的・意義>

安定収益の拡大により黒字化を定着させるとともに、更なる企業価値向上に向けた取り組みを行います

◆ 連続的な成長に向けて → KPIの着実な達成とAUMの更なる拡大

中期経営計画・目標	重要な成果指標（KPI）		重要な目標指標（KGI）		
	2027/3月期		27/3月期	目指す姿	
	投資開発事業 運用資産規模(AUM)増加額	150億円	安定収益	8億円	10.8億円
	投資運用事業 運用資産規模(AUM)増加額	300億円	ROE	12.7%	資本コスト 13.4%以上
	ファンド・プラットフォーム事業 受託資産規模(AUA)残高	4000億円	親会社株主に帰属 する当期純利益	10億円	黒字化の定着 一時収益の増加

更なる企業価値向上

◆ 非連続的な成長に向けて → 新たにM&A戦略への取り組みを実施

（M&A対象企業）

- 各種ライセンス保有企業
 - 事業パイプライン保有企業
- 新たな事業機会と収益機会の創出

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 12 -

本ファイナンスの目的に関しまして、より詳細にご説明申し上げます。

まず、中計の目標のAUMを増加させ、安定収益を拡大し、黒字化を定着させます。そしてAUMを達成することにより、また投資機会を増やすことにより、単に安定収益を確保するだけではなく、さらなる成功報酬の獲得による超過収益の獲得の機会、そしてAUMが大きければ、その機会掛けるAUMの金額でございますので、より大きな超過収益金額の獲得につながるものと考えております。

さらに当社は、さまざまなプロジェクト、それから投資運用事業によりまして、投資先企業に投資を行っております。そうした中には、当社の安定収益の確保につながる会社、それから当社の既に行っている事業、あるいは、当社が大きな投資を行っている投資先の事業と事業のシナジーが非常に大きいものが出てまいります。金融財務のレバレッジだけではなく、事業のレバレッジによって、その投資先だけではなく、当社自体も、より大きな成長可能性、成長を実現できるようなターゲットがあった場合、当社自身の非連続の成長に向けまして、積極的なM&Aを行ってまいり所存でございます。

申し上げました通り、M&Aの対象企業は事業パイプラインを保有する会社、当社の事業のさらなる発展に必要なライセンスを保有する会社がターゲットになります。M&A先の企業の規模は、企業価値で約10億円から、大きいものであれば20億円、30億円といったような会社もターゲットになる予定でございます。

また、ライセンスが必要な理由につきまして、より詳細に説明申し上げます。

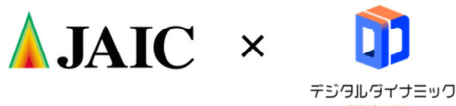
当社はこれまで、適格機関投資家等特例業務という業法に基づいて、投資活動を行ってまいりました。投資家に一定の範囲・制約がかかる業態でございまして、かたや順調なファンドの組成と、プロジェクト活動が進捗しておりますので、より広範な投資家の募集、投資ファンドの組成、そうした投資家に向けた運用商品の企画が可能になるためには、より広範な活動を行えるライセンスが、そろそろ必要になってきていると判断しております。

そのようなライセンスを獲得するために、そうしたライセンスを保有する会社を当社のグループに加えるという判断を行っております。こちら、後ほど詳細にご説明申し上げます。

また、事業パイプラインを保有していると申し上げました通り、当社とシナジーがある先、それから当社自体、または当社の投資先と事業レバレッジがあり、当社自体がその成長可能性をより上げられる、あるいはその成長をより実現できる先につきましては、当社が場合によっては、100%その会社の成長を取り込んでいくことを積極的に考えてまいりたいと思っております。

福島県における分散型AIデータセンター事業

関連会社 JAIC データダイナミクスによる福島県双葉町における
分散型 AI データセンター事業^(※1)が支援事業に採択



採択事業の概要

所在地	福島県双葉町
受電規模	2MW(メガワット)
施設規模	最大100台規模(※2)のサーバーを配置可能
サーバー台数	NVIDIA 製 B200 を搭載した高性能サーバー32 台を整備
事業内容	GPU ホスティング事業およびコロケーション事業
総事業費	30 億円規模(想定)

(※1)デジタルダイナミック株式会社が2025年7月に開始した事業。国内の東京圏および大阪圏に集中するAIデータセンターを地方へ分散配置し、AIの社会実装に不可欠な低レイテンシなデータ処理環境を全国に整備するとともに、災害へのレジリエンス強化、都市部における電力負荷の分散を目指すもの。

(※2)JAIC-DD社においてNVIDIA製 B200の公表スペックに基づき、当該GPU及びその他消費電力量を一定の前提により試算し、台数を算定したもの。

当社はグループ会社に、関連会社のJAIC データダイナミクスという会社を合併で設立しております。そのJAIC データダイナミクスの第1号案件で、福島県双葉町におけますデータセンター事業が、経産省の補助金に採択されました。

今般、福島県双葉町のデータセンターにつきましては、2メガワットのコンテナ型、最大100台規模のサーバーを配置できるデータセンターの新規設立を目指しております。こちらでは、NVIDIA製 B200と、最新鋭の構成のサーバーを整備いたしまして、AIデータセンターの運用を来年の12月に開始する予定でございます。

総事業費は30億円規模を想定しておりますが、そのうちの約半分が経産省の補助金で賄われる予定でございます。それ以外の資金につきましては、当社がJAIC データダイナミクスのもとで取り組みます、ファンド等により調達することを考えております。

KICホールディングスの子会社化を決定

物流施設やデータセンターの開発を手掛け
傘下にアセット・マネジメント会社を保有する企業の子会社化



KICホールディングス 会社概要

名称	KIC ホールディングス株式会社
所在地	東京都千代田区神田錦町三丁目19番
代表者	代表取締役会長兼社長 峯田 勝之
事業内容	持株会社、不動産開発事業、プリンシパル投資事業
設立	2018年6月20日
株主構成	峯田 勝之 42.7%、株式会社ケーエム40.6%、当社16.7%（割合は議決権比率）
主なグループ会社と保有ライセンス	KICアセット・マネジメント株式会社(KIC ホールディングスの100%子会社) 保有ライセンス:金融商品取引業、第二種金融商品取引業、投資助言・代理業、投資運用業、不動産投資顧問業、宅地建物取引業

また、より発展的にデータセンター事業を拡大していくために、当社の事業パートナーであった株式会社KICホールディングスを、来年2026年1月に、その発行済株式の60%を最終的に取得し、当社の子会社化することを決定いたしました。

元々KICは、当社と物流倉庫の開発を行う事業パートナーでございましたが、今般データセンター事業の開発に取り組むにあたりまして、同社が既に関東で、受電容量で国内でも最大規模の大型プロジェクトを保有しておりまして、そのプロジェクトに当社も参画し投資を行うために、またそのノウハウを当社自体が取得するためにKICホールディングスの子会社化し、当社もそのデータセンタープロジェクトに既に3億円の出資を初期段階から行いました。

ライセンスと、先ほどから再三再四、申し上げておりますが、実はKICホールディングス株式会社の傘下には、KICアセットマネジメントという金融商品取引業のライセンスを保有する子会社がございます。この子会社を今後、例えばデータセンタープロジェクトのファンド、あるいは当社がこれまで進めてきた、さまざまな上場株式あるいは未上場企業への投資を行うファンド、また、これまで当社が行ってこなかった、例えば貸付型のファンドや社債型のファンド、メザニン型のファンド、さまざまなクレジット型のファンドもございますが、こうしたさまざまな金融商品を新たに開発し、より広範な投資家への販売を行えるような体制を構築してまいりたいと思っております。

これまで、当社は限定的な機関投資家、投資家様を対象に資金調達を行ってきたことに比べると、より広範な投資家に対しまして、金融商品の開発・募集を行うこととなりますので、当社のAUMの増加や投資機会の増大につながるものと認識しております。

5. 業績予想－通期業績予想の詳細



単位:百万円	2025年3月期 通期 実績	2026年3月期 第2四半期 実績	2026年3月期通期見込 (2025年5月開示)	進捗率
営業収益	2,150	361	2,450	14.8%
営業原価	990	75	1,050	7.2%
営業総利益	1,160	286	1,400	20.4%
販管費	886	460	900	51.2%
営業利益	273	△174	500	-
経常利益	438	△198	460	-
親会社株主に帰属する 四半期/当期純利益	399	△166	450	-

- ✓ 第2四半期までの実績は巡航速度、業績は下期偏重の見込み
- ✓ 株式の売却は、国内で複数の未上場株式の売却を見込む
- ✓ プロジェクトの売却は、ディストリビューションセンタープロジェクト、複数の障がい者グループホームプロジェクト、その他プロジェクトの売却を見込む

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

© Japan Asia Investment Co., Ltd.

- 15 -

最後に、2026年3月期の通期の業績見込みにつきましてご説明申し上げます。

中期経営計画ではAUM、それからAUAといった預かり資産、受託資産を目標としておりますが、今26年3月期への業績の寄与は、まだ段階的な状況でございます。過去に投資をした資産の売却、あるいは既に組成が進んだファンドからのキャピタルゲインが中心となる見込みでございます。

営業収益につきましては24億5,000万円、親会社に帰属する当期純利益につきましては最終的に4億5,000万円を、引き続き見込んでおります。

足元、第2四半期につきましては赤字進捗でございますが、これから進捗します下期に、こうした既存プロジェクトの売却、あるいは上場、未上場株式の売却をしっかりといたしまして、この26年3月期の業績見込みをしっかりと達成してまいりたい見込みでございます。

一方で、プロジェクトの売却は金額、件数ともに減少する見込みでございます。売却予定のプロジェクトにつきましては、物流倉庫、複数の障害者グループホームプロジェクトの売却を見込んでございます。

プロジェクト事業につきましては、環境が、より逆風が少し吹いているという認識のもと、これまでプロジェクトの組成につきましては慎重に、慎重に進めてまいりました。その結果、プロジェクトの売却は、今期は少ない見込みでございますが、今後の開発プロジェクトといたしましては、引き続き、障害者向けグループホーム事業、ヘルスケアと、新たに、再エネ事業に代わる当社の事業の柱となりますデータセンター事業と、こちらが徐々に徐々に、収益に寄与してまいり見込みでございます。どうぞご期待いただけたらというように考えております。

また、さまざまなプロジェクトの進捗、それから前向きな投資が今後増えてまいりますことに伴いまして、積極的な人員の採用に動いております。こちらの見込みによりまして、若干、販管費につきましては増加を見込んでおる予定でございます。

足元、巡航速度で進捗しておりますが、下期に向けまして、株式やプロジェクトの売却を下期集中型でしっかりとこなしまして、通期の業績予想を据え置いたまま、こちらを達成してまいりたいと考えております。

5. 業績予想－将来情報についてのご注意



- ✓ 業績予想につきましては、当社グループが展開するプライベートエクイティ投資はその事業特性上株式市場等の変動要因による影響が極めて大きく、加えて昨今の変動の激しい環境下においては合理的な業績予想が困難なため、当社は業績予想を行っておりません。
- ✓ しかしながら、投資家及び株主の皆さまの利便に資するべく、業績予想に代えて、ある一定の前提を元に策定した「従来連結基準による見込値」を、数値の確度は低いものの、参考情報として開示しております。
- ✓ なお、当該「従来連結基準による見込値」をはじめとする本資料に掲載されている全ての将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報及び一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の数値は様々な要因により記述されている内容とは大きく異なる可能性があります。

こちらは、業績予想をご利用になる上での注意事項となります。
皆様、ご確認頂きますよう、お願い致します。

以上で私からのご説明は終了です。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答のお時間

ご質問はQ&A機能にてお受付いたします。
(匿名不可)



第1四半期の説明会からの大きな変化といたしましては、投資開発事業につきましては、データセンター事業です。当社は、元々再エネ事業が事業の柱でございましたが、再エネ事業が先細る中、新たな事業の柱を模索しておりましたが、データセンター事業といった大きな柱を築くことができました。

また投資運用事業につきましては、上場、未上場を問わず、さまざまなファンドの組成が順調に進捗しております。上場企業につきましても、引き続きパイプラインが複数、足元でも走っております。また未上場につきましても、バイアウト案件も含めまして、また企業再生ファンド等、当社がこれまで取り組んでこなかった領域のファンドにつきましても、組成が進んでおります。

この結果、当社は類を見ない、VCでも、それからCVCでもなく、PEファンドでも、上場企業ファンド投資会社でもない、あらゆる上場会社、未上場会社、企業のステージを問わない、さまざまな企業に対して資本、財務、事業のソリューションを提供できるようなファンドの組成が可能になっております。

また、さらにそこから大きく飛躍した点につきましては、当社がそうしたプロジェクト、それからファンドの組成を進めていく中で、当社自体の収益、それから事業のレバレッジ、レバレッジというのは金融のレバレッジだけではなくて、当社の事業リソースを生かすことで、その投資先の事業の成長をさらに加速させることができるような投資先につきましては、もう当社の成長に取り込んでしまおうといった観点から、M&Aを新たな成長戦略として、加えることができるようになりました。

この第1四半期までは、M&Aは当社の戦略には入っていなかったかと思います。あくまで開発プロジェクトとエクイティ、株式を通じた投資ファンドの組成の2本柱でございましたが、こちらが順調に種まきが進む段におきまして、当社自体がその成長を取り込んでいくことができるようになったのは、まさに、この種まきが順調に進捗していったからだというように認識しております。

その結果、このまいた種が、しっかり若い芽が出るような、芽をつぶしてしまわないようにするために、前向きに思い切って、大規模希薄化を伴う資金調達を決断させていただきました。これま

での財務補填型のファイナンスと違いまして、あくまでも全て成長に向けるための大型の資金調達と捉えていただければ幸いです。

この「まいた種が、しっかり芽を出して、花を咲かす」、これが中計3カ年の27年3月期に達成する目標でございますが、この大型の調達をもって、この「花を咲く」というステージまでは、ほぼほぼ見えてきたかなと申し上げてよいと思っております。

その先には、当社が事業再生ADRから続く借入金のリスケジューリング状況をいち早く返上し、正常な投資事業会社として、さまざまなプロジェクトと、さまざまな投資、株式・債券・社債・貸付、あらゆる投資を行える投資会社として、そしてその中から、当社の成長を加速させるようなM&Aによっても成長を実現できる会社として、他に類を見ない大きな差別化を持った、日本とアジア、海外をつなげるような投資事業会社として、27年3月期までに、しっかりこの計画を達成してまいりたいと思っております。



お問合せ先:経営管理グループ IR担当

ir@jaic-vc.co.jp

ご質問がないようですが、随時、IRアドレス等にメールをいただければ受け付けますので、後から思い至った方はご連絡くださいませ。

では、少しお時間が早いですけれども、本日の説明会を終了いたします。皆様、本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。